



国語を様々な側面からみて、日本語の面白さや深さを知ってもらえればと思います。

問題【国語】

左の漢字は「緑」をいろいろな書体で書いたものです。それぞれの書体名を左から順に答えましょう。

緑 緑 緑

(参考) https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s_shosha/koza/koza_04.html

豆知識 雑学コラム

書体、時代とともに変化

今日は、書体についてみていきましょう。書体とは、文字の形のことですね。習字や書道で、漢字に篆書・隸書・草書・行書・楷書の五つの書体があることを学んだ人も多いかもしれません。上の「緑」を見れば、同じ漢字なのに書体によって、全く見た目が変わることが分かります。なぜ、こんなに見た目が違うのか考えてみましょう。

そもそも漢字は、古代中国の占いで甲骨文字に由来しています。初めのころの漢字は、決まった形がなく、使う人や場所によって異なっていました。同じ文字でも形

が違ふということはとても厄介です。この状況を解決するため、中国を統一した秦の始皇帝が漢字の形について、こういう書き方をするといい基準を作り、書体を統一しました。この時の形を「小篆」といい、甲骨文字から小篆までの書体をまとめて「篆書」と呼びます。上の一番左の書体が篆書です。現在、篆書で書くことはあまりありませんが、パスポートの表紙や印鑑などで目にするものが多い書体ですね。

篆書は書きづらく、読みづらくという欠点がありました。こうして欠点を解決するためにいろいろ

な書体が生まれました。真ん中の書体は「草書」で、それまでの書体の字画を簡略化して、速く書けるようにして生まれました。確かに流れるように書いてあって、慣れれば、速く書けそうですよね。また、一番右の書体は「楷書」です。楷書は文字の二画二画をはっきりと書くことで読みやすくした書体です。小学校や中学校の書写の時間ではこの楷書に倣って字の練習をするのは、読みやすい文字を書くためですね。

さて、書体は時代とともに変化してきましたが、実はその変化は今も続いています。つい数年前まで、教科書には「教科書体」という楷書をもとにした書くときのお手本となるような書体で書かれて

いるのが一般的でした。しかし、この書体は、実は弱視の人や読み書きに障がいのある人にとって、読みづらい書体でした。そこで今までの教科書体より太さの強弱を抑えた「UD（ユニバーサルデザイン）デジタル教科書体」という書体が作られて教科書の書体として使われるようになりました。お兄さんやお姉さんの使った教科書と見比べてみると読みやすくなっている実感できるかもしれません。いろいろな書体がありますが、読む相手のことを考えて選択したものですね。

「篆書」「草書」「楷書」

【曼梅】